

# 我が国に導入された暖地型牧草の種子リストとそのデータベース化

清水矩宏・佐藤博保・中川 仁 (九州農業試験場)

Norihiro SHIMIZU, Hiroyasu SATO, and Hitoshi NAKAGAWA : Data Bases of the Lists of Tropical Grasses and Legumes Introduced into Japan

我が国への暖地型牧草の本格的な導入は、1960年代に始まり暖地型牧草が注目されるに伴い、様々な草種が収集・導入されてきた。こうした中で1974年、九州農業試験場に全国的な分担体制のもとで暖地型牧草の導入、評価、保存を行う牧草第1研究室が設置された。当研究室では海外からの収集・導入を図りながら、国内での保存草種についても収集し、増殖保存を行ってきた。10年を経過しその保存点数は2科70属 244種5600点に達した。これらの中には将来にわたって貴重な遺伝資源となるものも多くあり、今回保存リストを整理し公開した。リストはすべてデータベース化し、農林水産省のオンラインシステムでの検索を可能にするとともに、1984年8月までの分については資料として刊行することにした。ここでは今までの主要な保存リストを紹介するとともに、九州農業試験場保存リストの概要について記述する。

### 1. 主要な暖地型牧草導入・保存リスト

各リストの概要および種子の流れは第1図に示すとおりである。詳細な情報については上記の刊行資料に記述してある。

1) 四国農業試験場・傾斜地利用研究室導入目録 我が国への導入の先鞭をつけたものであり、ここから各機関に種子が配布され暖地型の認識が深まっていた。

2) 琉球畜産試験場・沖縄における導入飼料作物目録 沖縄への導入歴を知る上で貴重な資料であり、現在の栽培草種の礎となっている。しかし、種子は保存されていない。

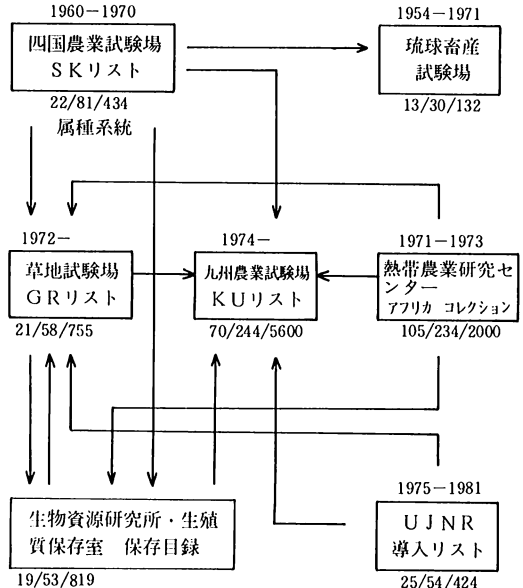
3) 熱研センター・アフリカからの新作物探索導入調査報告書 1971-1973年にかけて2次にわたってアフリカから収集・導入が図られた。イネ科、マメ科を中心に2000点以上にのぼり、関係機関で逐次評価が行われた。中でもギニアグラスでは重要な育種素材が見出され、新品種の育成につながった。このコレクションは種子も現存することから「遺伝資源情報管理システム-GRIMS/CGS」によってデータベース化し検索の便を図った。ファイル名は「N0700901/AFRICA」である。

4) 暖地型牧草研究会・我が国に導入された暖地型牧草種子保存目録 1975年までに導入された280種の種レベルの所在情報(機関および担当者)が記載されている。

5) 「UJNR」による導入リスト アメリカからの導入と評価試験が1975-1981年に実施され、これはその報告書の形をとっている。特性データがあるのが特徴である。

6) 草地試験牧草部種子保存リスト 草地試験場が収集、導入したもののリストであるが、Panicum属が中心である。本リストも「GRIMS/CGS」でデータベース化し、「N0700901/GR-LIST」に収録した。

7) 生物研・生殖質保存管理室種子保存目録 同管理



第1図 我が国における主要な暖地型牧草の導入リストと種子の流れ

室は育種材料を広く収集、保存するとともに、育種家へ配布する業務を行っている。この目録も「GRIMS/CGS」でデータベース化してあり、飼料作物のファイル名は「S3100070/DBGRBOKU」である。

### 2. 九州農業試験場—暖地型牧草およびその類縁植物の種子保存リスト—

本リストは九州農業試験場研究資料第64号として刊行することにしたが、その内容は次のとおりである。

I 暖地型牧草およびその類縁植物の学名←一般名(英名)対照表

II九州農業試験場における種子保存リスト

1. 保存種名一覧
2. 種別リスト イネ科 マメ科
3. リストのデータベース化と検索方法

III主要な導入リストの紹介

本資料のI項はリスト整理の過程で必然的にまとめられたものであり、III項は前記1.の内容が詳述してある。本資料のメインであるII項には、イネ科、マメ科別に各草種の系統ごとに来歴が記録されている。また、「GRIMS/CGS」で作成されたデータベースの利用方法が記述されている。今後の収集・導入分は当面このデータベースに収録する予定であり、全国の端末から検索する具体的方法を示している。データベース名は「N0700901/KU-LIST」である。